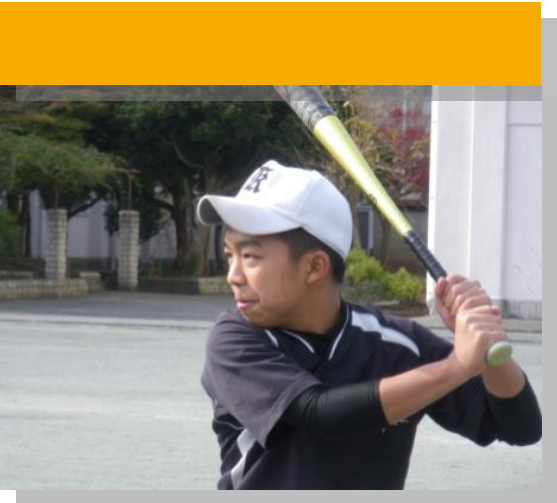




輝け！ よこすかの 子どもたち



第9号

2016.03

- P 1～2 多くの人に支えられて、子どもたちは成長します
～学校生活を支援するためのさまざまな職員～
- P 3 家庭と手を携えて ～教育フォーラムの開催～
- P 4 ゲームづくりから関心をもたせて ～プログラミング教室の開催～
主体的な学習態度の育成を目指して ～よこすか土曜寺子屋教室～
- P 5 授業力の向上を目指します ～各校の研究発表を通して～
- P 6 先生たちも学んでいます ～自主研修の取組～
- P 7 部活動を通して育てています ～運動部活動モデル校の取組～

多くの人に支えられて、子どもたちは成長します

市では、子ども一人一人のニーズに応え、教員一人一人の指導力向上を図るために、教員以外に専門的な役割をもつさまざまな職員を配置しています。

■ 国際教育コーディネーター

支援教育課に1名配置し、外国につながるのある児童生徒や保護者への支援を行っています。就学相談や教育相談の対応、その児童生徒の日本語に係る状況を把握し、指導につなげたり、日本語指導員に対して支援プログラム作成等の指導助言を行ったりしています。



■ 日本語指導員

外国につながるのある児童生徒に直接関わり、生活面の適応への支援や周囲と関係を築き、居場所を広げられるように支援します。また、学級での学習活動に参加するために必要な年齢相応の日本語の力を育成する指導を行います。



■ ふれあい相談員（小学校）

全小学校に週2日（スクールカウンセラー配置校は1日）配置されています。休み時間には多くの児童が相談室を訪れ、仲間と遊んだり、相談員と話したりしています。保護者からの相談もあり、子どもの気持ちに寄り添いながら、いじめや不登校等の未然防止に努めています。



■ 登校支援相談員（中学校）

全中学校に週4日、配置されています。教室など大きな集団になじめない生徒が小集団での学習を通して、教室へ復帰することを手助けしています。また、学級担任とともに、不登校生徒への家庭を訪問したりしながら、学校に登校できるよう支援しています。



■ スクールカウンセラー

心理の専門家として、全中学校・高校と小学校4校に週1日配置されています。児童生徒や保護者と直接面談し、人間関係や自分の性格等についてのカウンセリングを行っています。また、教職員と一緒に今後の方法について検討したりして、課題解決につなげます。



■ 学校生活を支援するためのさまざまな職員

■ 特別支援学級介助員

特別支援学級において、教育活動の一層の充実のために配置されます。児童生徒の身辺処理の介助や校内外での活動の介助、危険防止のための安全確保などを行います。担任の先生と一緒に成長を見守ります。



■ 教育支援臨時介助員

配慮を必要とするすべての児童生徒に対して、配置される介助員です。日常の学習活動や遠足等の校外活動など、身辺処理の介助や危険防止のための安全確保などを行います。



■ スクールソーシャルワーカー

市内3校を拠点にすべての学校に対応しています。児童生徒を取り巻くさまざまな環境への働きかけや社会福祉の関係機関と連携を行っています。学校と協議しながら、問題行動や不登校等の予防や早期解決に向けての道筋を探ります。



■ 学力向上放課後教室 サポートティーチャー

全小中学校に配置され、授業中や放課後の時間帯や長期休業中等を利用して、個に応じた少人数での学習を行い、学力向上を目指しています。わかる喜び、できる楽しさを実感することで児童生徒の学習意欲につなげます。



■ 外国語活動アドバイザー

小学校外国語活動の指導の充実のために、先生方への研修の講師を務めます。各小学校や教育研究所で、外国語活動の授業のアドバイスをしたり、教材をつくったりしています。



■家庭と手を携えて ～教育フォーラムの開催～

市では、全国学力・学習状況調査と市独自の学習状況調査を活用して、小学3年生から中学3年生までの学習や生活の状況を把握しています。この調査を活用して、各校では、児童生徒一人一人の状況と学校の取組を振り返り、授業改善や個別指導に役立てています。

昨年度は、総合高校を会場に、学校・家庭・地域のそれぞれの役割を考える教育フォーラムを開催しましたが、本年度は、各地域で保護者を中心に開催し、各家庭と一緒に、子どもの学力向上について考えてきました。フォーラムでは、学力・学習状況調査から見えてくる子どもたちの学力や生活・家庭学習の状況について説明し、学校や教育委員会の取組について理解をしていただきました。



【学校や教育委員会の取組を紹介】

その後、参加者がグループに分かれ、各家庭での様子や取組を意見交換し、子どもたちのために、家庭や地域でどのようなことができるのか話し合いました。子どもの学力は、一朝一夕で伸びるものではありません。学校のわかりやすい授業とともに、家庭での学習習慣や生活習慣がそれを支える大きな要素となっています。

21世紀を生きていく未来を担う子どもたちのために、学校・家庭・地域がこれからも協力し合えるよう、教育委員会も取組を続けていきたいと考えています。



【子どもたちの状況について説明】

*** 参加者の声 ***

- 横須賀市の子どもの学力の状況に課題があることは知っていたが、全国よりも、スマートフォンやゲームを持っている、使用している時間が多いことに驚いた。
- 生活習慣と学力の関係がとても興味深かったです。生活を見直そうと思います。
- 家庭のルールをしっかりと決めないと、学力ものびていかないのだと思いました。
- 子どもが家庭でまかされる仕事（ゴミ捨て、風呂掃除など）があまりないということが気になった。



【参加者によるグループディスカッション】

横須賀市の学力向上に関する取組は

横須賀市における学力向上

検索

■ゲームづくりから関心をもたせて ～プログラミング教室の開催～

市では、小学校3年生から6年生を対象に、「小学生プログラミング体験教室」を毎月実施しています。2012年度から学習指導要領が新しくなり、中学校の技術・家庭科の授業で「プログラムによる計測・制御」が必修となり、本講座が「子どもたちがプログラミング学習に興味をもつきっかけ」となることをねらいとしています。



【会場：生涯学習センター（まなびかん）】



大学の先生を講師に迎え、関東学院大学の大学院生がサポートしてくれる中、応募した20名の児童が「ラズベリーパイ（小型コンピュータ）」と「スクラッチ（プログラミングソフト）」を使ってゲームをつくっていきます。児童の作品は、「横須賀市生涯学習センター」のホームページで公開されています。

■主体的な学習態度の育成を目指して ～よこすか土曜寺子屋教室～

小学3年生から中学3年生を対象に、「よこすか土曜寺子屋教室」を実施しています。参加者が宿題や学習プリント等を持参し、自主学習を基本として行い、市で配置したサポートティーチャーと学習サポーターが学習をサポートします。本年度は長井・北下浦・坂本のコミュニティーセンターで行っています。今後、各地域のコミュニティーセンターを利用し、取組を広げていく予定です。



【会場：長井コミュニティーセンター】

■授業力の向上を目指します ～各校の研究発表を通して～

各学校は、研究テーマに基づいて継続的に研究を行っています。学習指導案の検討を行い、それを基に公開授業を行い、他校からも参加した先生方とともに、授業について協議を行い、次の授業改善につなげていきます。

STEP 1 学習指導案検討



【鴨居中】



【野比東小】



【小原台小】

公開授業の前には、中学校では各教科を中心に、小学校では学年や低中高学年ブロックを中心として、指導案の検討を行います。授業のねらいを明確にして、児童生徒にとって、わかりやすい教材の工夫や問いかけの仕方等を考えます。誰にとってもわかりやすいユニバーサルデザインを取り入れた授業やどのように児童生徒の学習状況を評価していくのかも検討します。

STEP 2 公開授業



【大塚台小】



【高坂小】



【公郷中】

指導案に基づいて実際に授業を行います。授業では、お互いの考えを聴くために児童が黒板の前に集まったり、自分の考えをパネルに書いて表現したりするなど、事前に検討した授業展開にそって授業を進めます。参観者も授業者と一緒に、児童生徒の反応や一人一人の学びの様子を丁寧に観察します。

STEP 3 研究協議



【岩戸小】



【長浦小】



【馬堀中】

公開授業の後、研究協議を行います。協議では、授業者がどのような授業を創ろうとしていたのか説明し、参観した先生方が授業について自分の意見を書き出し共有します。児童生徒の様子から授業展開の仕方や学習教材が適切であったのか、ねらいにそった授業となっていたのかなど、指導技術を高め、よりよい授業となるよう改善策等が協議されます。

先生方はさまざまな機会を捉えて、自主的な研修を行っています。学校での勤務を終えた夜の時間帯や土曜日など、自分の授業力を向上させるための研修に参加しています。

教育研究所のパワーアップ講座



退職した校長先生を迎えて、小学校音楽の授業について学びました。映画「サウンド・オブ・ミュージック」に収められている「ドレミの歌」を教材に、子どもたちが楽譜に親しみを感じ、読譜という学習に意欲的に取り組めるような授業づくりを学びました。



市内の小学校の先生を講師に迎え、来月指導することになる理科の単元(もののあたまり方)について、講座を実施しました。児童の興味関心を引き出し、自分で説明したくなる授業にする工夫について、教材や授業展開のアイデアを学びました。

研究会主催の学習会



先生たちは各教科の研究会に所属し、授業力向上に努めています。数学では、すでに行った授業の教材やこれから行う授業の指導案を持ち寄って、検討を進めます。若い先生だけでなく、ベテランの先生も参加することで、さまざまなアイデアがだされ、明日の教材研究につながります。



教科の他に、総合的な学習の時間や道徳などの研究会も組織されています。小学校の校長先生を迎えて、小学校の特別活動における話し合い活動はどのように行われているのかということを学びました。小学校の実践を知ることによって、それを踏まえた中学校における特別活動について考える機会となりました。

■部活動を通して育てています ～運動部活動モデル校の取組～

中学校では、多くの生徒が部活動に加入し、仲間とともに活動に自主的に参加し、技術の向上だけでなく、チームワークの大切さや精一杯努力することの大切さを学んでいます。

衣笠中学校では、本年度「運動部活動モデル校」として、体力の向上とともに、運動部だけでなく、すべての部活動の指導を通して学校の課題を改善できるよう「教育活動の向上を目指す部活動指導の在り方」という研究テーマを設定し、取組を進めています。「人として成長してほしい」という思いで、先生方は部活動指導に取り組んでいます。



*** 生徒の声 ***

- チームプレイだから相手を尊重し、まわりに合わせることの大切さを学びました。
- 休日の時間を私たちのために使ってくれて、先生に感謝しています。
- 人見知りだったけれど、よい仲間に出会えてよい体験ができています。
- 他学年や他校の人と人間関係が広がり気持ちいいやコミュニケーションの大切さを感じます。

広 告

《編集・発行責任者》

横須賀市教育委員会事務局

教育総務部総務課 教育政策担当

〒238-8550 横須賀市小川町 11 番地

TEL : 046-822-9709 (編集担当直通)

FAX : 046-822-6849

E-mail : sc-real@city.yokosuka.kanagawa.jp

◇この冊子についてのご意見や感想をお寄せください。

